

サウジアラビア

主要データ

国名〔英名〕	サウジアラビア王国〔Kingdom of Saudi Arabia〕
面積(km ²)	2,149,690
海岸線延長(km)	2,640
人口(百万人)	28.7
人口密度(人/km ²)	13.3
GDP(百万US\$)	469,426
一人当りGDP(US\$)	18,855
一人当り銅使用量(kg/人)	5.6
主要鉱産物：鉱石(千t)	金・銀・銅・亜鉛鉱石：29,527(2008見込み) その他石膏、カオリン、シリカサンド等
主要鉱産物：地金(t)	金：4.5、銀：8.2、鉛：40千t(2008年WBMS)
鉱業管轄官庁	Ministry of Petroleum and Mineral Resources (MPMR)
鉱業関連政府機関	Deputy Ministry for Mineral Resources (DMMR)、Saudi Geological Survey (SGC)
鉱業法	Mining Investment Code(2004年、旧鉱業法改正で発効)
ロイヤルティ	NA
外資法	外国投資法(2000.4制定)
環境規制法(環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	General Environment Law
鉱業公社	Saudi Arabian Mining Co. (Ma'aden)
鉱業活動中の民間企業	National Gypsum Company、Saudi Ceramics Company
近年の鉱業関連問題(資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	NA
2008年のトピックス	<ul style="list-style-type: none"> ・Ma'adenとRio Tintoが推進していたボーキサイト-アルミ製錬プロジェクト(アルミ70万・アルミナ160万t)が、2008.12のRio Tinto撤退(後に技術契約締結に変更)により、予定より3年遅れの2015年稼働予定に。 ・ブラジル大統領2009.5にサウジ訪問、経済関係拡大で合意、Valeがサウジボーキサイト開発に興味を示していることが報道された。

1. 鉱業一般概況

- ・サウジアラビアには、油田とは大きく異なり、現在稼働している鉱山は金銀を主体とし、一部で銅亜鉛が付随する5鉱山のみ。規模も大きくはなく、産出量も限定されている。
- ・開発検討や探鉱中などで確認されている金属資源は、金・銀・銅・亜鉛・ボーキサイト

のほか、ニオブ・タンタル・レアアース・ニッケル・錫・タングステンなど多岐にわたる。特にGhurayyahでは2003年のプリFSでタンタル、ニオブなど20年にわたる1.5百万t/年の鉱石採掘量がTertiary Minerals社(英)とサウジ2社のJ/Vによる探査で有望視されていたが、現在はライセンスなどの問題から

進行していない。

- 2007年に締結された業務提携契約に基づき、中国地質鉱業総公司与 Al-Masane 社との間で、南部 Al-Kobra 鉱山で銅・亜鉛・金の鉱山開発が進められている。
- Ma'aden と Rio Tinto によりボーキサイト-アルミ製錬プロジェクト(アルミ 70 万 t・アルミナ 160 万 t)がインフラ整備を含めて推進されて、当初は 2012 年生産開始の予定であったが、2008.12 に Rio Tinto が撤退を決めたことにより、その見通しが危ぶまれた。後に Rio Tinto から技術契約締結に基づく技術導入に変更され、予定より 3 年遅れの 2015 年稼動予定にリスケジューリングされ進行中。
- アルミプラント建設は中東一帯で大きなプロジェクトが計画されている。このほか、Chalco(中国)と MMC(マレーシア)などが出資する Sino- Saudi Jazan アルミプロジェクト(アルミ 100 万 t)が 2007.11 に締結され、

当初は 2008 年 Q4 稼動と報道されていたが、まだ実現していない。更に、ドバイの Emal International が Abdullah Economic City にアルミ 70 万 t プラントを 5 十億 US\$ で建設との報道もなされたが、不確定。

- 非金属では、Ma'aden(70%)と SABIC(Saudi Basic Industries Corporation)(30%)出資による燐鉱石プロジェクトが進行中である。

2. 鉱業政策の主な動き

- 民間活力、外資導入による産業の活性・振興をはかる目的で 2000 年に外資法が改正。サウジアラビア国内で外資 100% の新会社の設立が認められるようになった。さらに 2004 年に旧鉱業法が改正され、鉱業投資法(Mining Investment Code)が発効したことにより、外資 100% による鉱区取得、探鉱、開発も可能となった。

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

(1) 鉱石生産量

鉱種	2007 年	2008 年	前年比増減率 (%)
銅鉱石(千 t)	0.7	3.6	+414.3
金 mine production (t)	4.4	4.5	+2.3
銀 mine production (t)	9.0	8.2	-8.9

中東協力センター「サウジアラビアにおける金属鉱物資源の工業事情調査」による鉱山ごと生産量は、
4. 鉱山・製錬所状況に記載
(出典：WBMS 2009)

(2) 地金生産量

(単位：千 t)

鉱種	2007 年	2008 年	前年比増減率 (%)
鉛地金	40.0	40.0	0.0
再生鉛	40.0	40.0	0.0

(出典：WBMS 2009)

(3) 地金消費量

(単位：千 t)

鉱種	2007 年	2008 年	前年比増減率 (%)
アルミニウム	90.0	95.0	+5.5
銅地金	159.6	159.6	0.0
鉛地金	44.3	46.6	+5.1
亜鉛	39.5	32.5	-17.7

(出典：WBMS 2009)

(4) 輸出入

WBMS によれば精製銅の輸入が 2005 年(159.8

千 t)となっているが 2007 年以降の値は集計されていません。

4. 鉱山・製錬所状況

(1) 鉱山 (金属鉱山のみ)

鉱山名	採掘量(千 t)	鉱種	企業名
Mahd adh Dhahab	1,245	金・銀・銅・亜鉛	Ma'aden
Al Amar	2,005	金・銀・銅・亜鉛	Ma'aden
Sukhaybatat	24,134	金	Saudi Company for Precious Metals
Bulghah	Sukhaybatat に含まれる	金・銀	Saudi Company for Precious Metals
Al Haiar	2,143	金・銀・銅・亜鉛	Ma'aden

Saudi Company for Precious Metals は Ma'aden の子会社
採掘量は 2008 年見込み
鉱山リストは「サウジアラビアにおける金属鉱物資源の工業事情調査」による

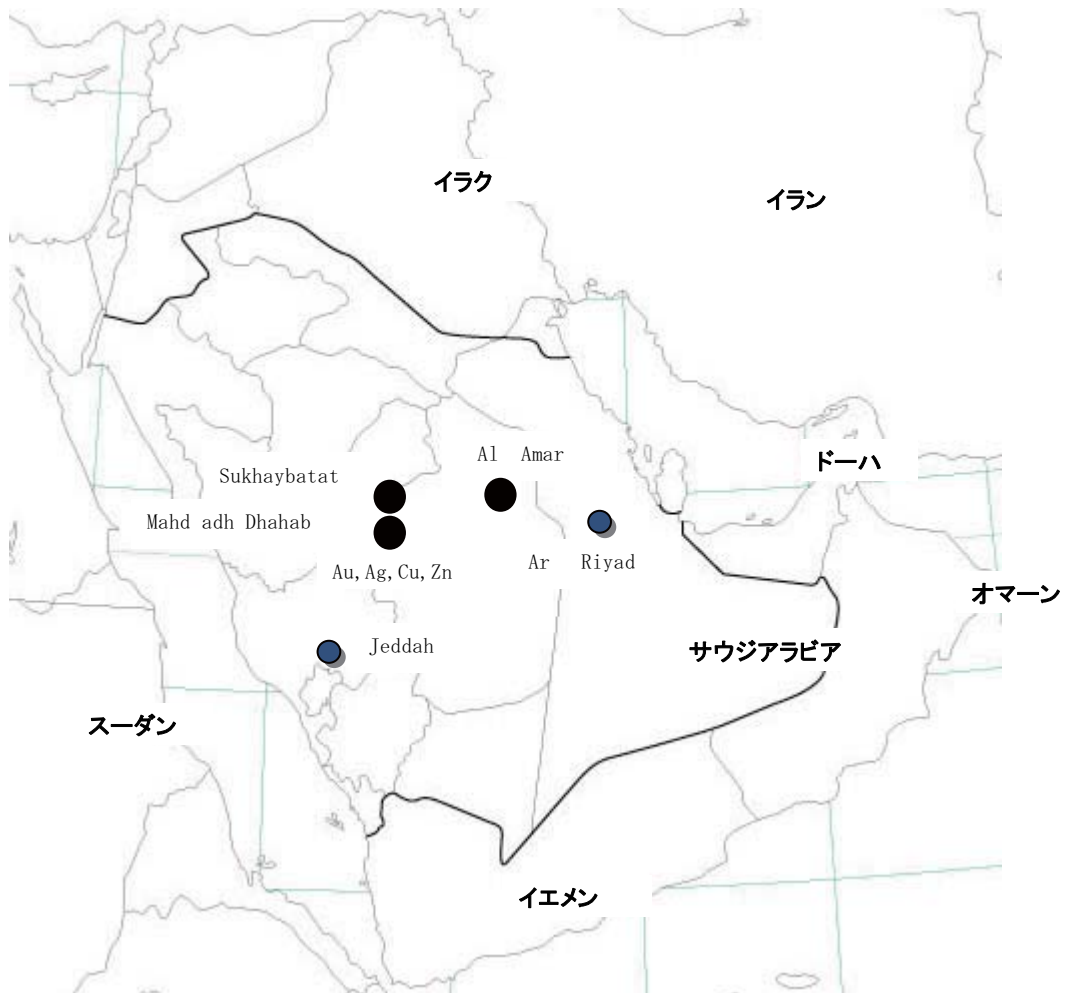


図 1. サウジアラビアの主要鉱山位置図

5. 我が国との関係

日本への輸入状況

(単位：千t)

鉱種	2007年	2008年	前年比増減率(%)
銅(黄銅青銅を含む)屑	2.9	4.3	+51.1
Al合金	0.1	0.6	+500.0
Al(Al合金を含む)屑	6.3	4.3	-31.7

(出典：日本貿易月表 2008.12)

- ・ 奥田内閣特別顧問の総理大臣特使としての訪問

5月16日から22日(サウジアラビア、アラブ首長国連邦、カタール)、奥田内閣特別顧問は総理大臣特使として湾岸諸国を訪問した。各国において良好な二国間関係を確認し、「重層の関係」を構築していくことの重要性を各国首脳と共有し、また、各国からは湾岸諸国における若年人口の爆発的増加や、石油依存体質からの脱却を喫緊の課題としていることを背景に、日本が教育、職業訓練分野及び産業の多角化の分野で果たす役割に高い期待が示された。また、太陽光を始めとするクリーンな新エネルギーや環境分野での日本企業との協力に期待感が示された。安倍晋三元総理大臣、総理大臣の特使としてサウジアラビアを訪問

1月26日(月曜日)から27日(火曜日)、サウジアラビア総合投資院が主催した第3回グローバル競争力フォーラムに出席し、基調講演を行ったほか、政府関係者等と会談を行った。

安倍総理特使は第3回グローバル競争力フォーラムにおける基調講演の中で、日サウジアラビア関係に関し、両国間の産業協力、二国間経済協定交渉の進展等に触れつつ、二国間関係の強化の在り方につき述べた。また、ダッバーグ・サウジアラビア総合投資院総裁と会談し、麻生総理発アブドゥラー国王宛の親書を手交した。会談では、安倍総理特使より、我が国のサウジアラビアに対する投資促進、中小企業政策協力、人材育成を柱とする産業協力の進展に触れたのに対し、ダッバーグ総裁より、中小企業政策等における日本のベストプラクティスを学びたい、日本企業の更なるサウジアラビア進出に向け努力して

いきたい旨述べ、引き続き両国間の経済関係を強化すべく互いに協力していくとの認識につき一致をみた。

- ・ シリコンカーバイド(SiC)での合弁企業設立
住友商事が米国社及びサウジアラビアのアルゴサイビ社の3社が、シリコンカーバイド(炭化ケイ素-SiC)の製造に関する合意書を締結した。3社は、合弁企業を設立し、工場を建設。2011年1月に製造・販売を開始する計画となっている。

新会社は、サウジアラビア西岸にあるジュベール工業団地を拠点とし、生産能力は年間2万4,000t。日本のSiC市場規模は年間約13万tだが、ほとんどを中国からの輸入品が占める。サウジアラビアでは、SiCの製造過程で最も重要なコスト要因である電力と石油コークスを安価で確保できる。さらに、外資企業優遇政策があるため、中国産の製品よりも高品位のSiCの製造が可能で、日本やアジア市場での拡販が目指されている。

6. その他トピックス

- ・ 2009年3月、財団法人 中東協力センターが財団法人国際鉱物資源開発協力協会に委託して以下の報告書が作成、発行された。

「平成20年度中東等産油国投資促進事業(調査事業)」サウジアラビアにおける金属鉱物資源の鉱業事情調査”事業報告書」

サウジアラビアの石油以外の鉱物資源を扱った調査としては、当機構で平成17年(2005年)9月に発行された「資源開発環境調査 サウジアラビア王国」に続くものであり、本稿もこの事業報告書から多くの項について参考あるいは引用した。

(2009.7.31/本部 渡邊 美和)